

2022年11月ハイパー研カレンダーレポート

4年に一度のサッカーワールドカップ(W杯)カタール大会の初戦、日本はドイツに歴史的な逆転勝利を収めた。誰もが負けると予想していたが、日本の選手たちは違っていた。前回大会に比べて明らかにレベルアップしているように感じたのは私だけだろうか。落ち着きというか自信というか、あたふた感がほとんどなく、世界クラスになってきたとも言える。さて今大会では、AIとコネクテッド技術が試合のジャッジに活用されている。「半自動オフサイド判定技術」は、カメラとセンサーを使って選手やボールの位置関係、シュートした時間などのデータを収集している。スタジアムにはトラッキングカメラを12台設置し、ボールには「慣性計測センサー」という仕掛けだ。前回のロシア大会から採用されているビデオ判定「VAR」(ビデオアシスタントレフリー)は、フィールドにいる主審1名と副審4名とは別の場所で、さまざまな角度からレフリーのサポートをする審判員だ。フィールドにいる審判による間違いをなくすため、判定を決定することは出来ない。日本対ドイツ戦でもVARの判定によりドイツのゴールが取り消しになっている。日本でそれらを楽しむことが出来るのは「ABEMA」のおかげである。これまでNHK等の地上波では日本戦など一部の放映権しか獲得してこなかったが、ABEMAのネットストリーミング配信は、日本史上初、全64試合を無料生中継している。同社にとっては過去最大の投資である。

ハイパー研では、「市民向け情報教育運営業務」が本格化してきた。これは大分市情報学習センターの閉館に伴い、市民のためのICT学習を目的として実施する事業である。おもに高齢者を対象としたスマートフォン講座では、11月はその初級編を、大分市内4箇所(明野支所、コンパルホール、植田市民行政センター、大分南部公民館)にて、それぞれ4日、11日、18日、25日に開催した。行政サービスをオンラインで提供することが増えてきているため、市民はスマートフォンを使いこなす必要がでてきた。情報弱者、たとえば高齢者にとっては、オンライン対応はそんな簡単な話ではないので、講座を開催することで学ぶ機会を提供しているのだ。また親子プログラミング体験講座を3箇所(明野支所、コンパルホール、鶴崎市民行政センター)にて、それぞれ6日、13日、27日に開催した。会場の雰囲気をお伝えするために、下記に一部、写真を掲げる。いずれも参加者の皆さんの満足度は高かったようだ。



(文責：青木栄二)